

特別支援学校の取組

「伝えたい! ことばのかけはし」 優秀作品コンクール 特別支援学校

特別支援学校「伝えたい! ことばのかけはし」優秀作品コンクールは、広島県教育委員会が主催し、県内の特別支援学校の児童生徒から応募された作品の中から優秀な作品を表彰し広く紹介することにより、特別支援学校における「ことばの教育」を推進するものです。令和4年度は4名が最優秀賞を受賞しました。どの作品も、内面からあふれる気持ちを素直に表現した作品でした。その中から1作品を紹介します。

最優秀賞の一部

がんばりたいきもち

(略)2にちめ、レオマワールドに いきました。ゆうがた、こんぴらさんにのぼって、よるごはんを たべました。また、きもちが あがったりさがったり しました。おふろにはいって、おかあさんに でんわをしました。おかあさんが、「うどんをかかってきてね。」といいました。はじめは 大じょうぶでしたが、レオマワールドや こんぴらさんのはなしをしていて、だんだんなみだが あがってきそうになりました。なみだをふさごうとしたけど、なみだが ちかまりました。なきました。



令和4年度表彰式
特別支援学校
「伝えたい! ことばのかけはし」
優秀作品コンクール表彰式

広島中央特別支援学校 竹村 心吾
広島南特別支援学校 宮永 陽愛
広島中央特別支援学校 栲沢 桜香
呉南特別支援学校 森 圭吾

(略)ことしのしゅうりょうは、なかなかいかなと、おもっていただけ ないてしまいました。ぼくは、なくのはしかたがないというきもちがあります。でも、なくとおかあさんがしんぱいします。おかあさんに しんぱいをかけたくないので、なかに がんばりたいきもちも あります。おかあさんに、がんばっているすがたを みせたいです。(略)

広島県立呉南特別支援学校
中学部3年 森 圭吾

大窪 シゲキの

こころの相談室

皆さんのリアルなお悩みや不安をスッキリ解決します!

広島FM「9ジラジ」でメインDJを務める 大窪 シゲキさん



Q 公立高校の入学試験で「自己表現」が始まりましたが、コロナの影響もあり、コミュニケーション能力が低下しているわが子を心配しています。子供との対話ができるだけするように心がけてはいますが、実際に学校でうまくコミュニケーションが取れているか心配です。大窪さんは、コミュニケーションを取るときにどのような点に気を付けていますか? 40代保護者

Q 私はいつも何か失敗してしまうたびに、うじうじ悩んでしまいます。どうすれば吹っ切れることができますか? 10代生徒



A 僕が子供たちとコミュニケーションを取るときに気を付けていることは、自分の話ばかりをしないこと。そして、相手に言葉にしてもらおうことです。「自分のことを話したり会話したりするのは楽しい」と、相手に思ってもらうために聞き上手になります。相づちや頷きはもちろんです。相手がしゃべりやすいような言葉のパスを出します。例えば「今日は暑いからアイスが食べたいね」と、「うん」が返事です。ではなくて「暑い日は何を食べたい?」と聞くと、「アイスかな」とゴールは子供。自分のキモチをカタチにできます。大人が全部を言わずに、子供を信じて最高のパスを出してあげてくださいませ。

A 大丈夫。僕も失敗したら未だに悩みます。大人なのに(笑)。悩むということは失敗を受け入れて、ちゃんと前に進もうとしている。だから自分を責めないで。失敗とは挑戦した結果であり、過去の出来事。そうだとすれば「過去は変えられないけど、未来は変えられる」。そんな気持ちで吹っ切ってほしい。気持ちを切り替えて、再び挑戦すれば、いつかは成功するはず。その時に「過去の失敗があったからこそ成功できた」と、あなたは過去さえも変えられる。本当の失敗と言うのは挑戦しないことかもしれない。ミスは、心の切り替えスイッチを押せばプラスになる。ラジオからも全力で応援しています。

質問のある方 P2の読者プレゼントの応募フォーム、またはハガキにご記入ください。

学校における働き方改革を推進しています

～すべての取組は、未来を担う子供たちのために～

教員の超過勤務や教員不足の深刻な実態が、全国的に問題となっており、本県も例外ではなく、「学校における働き方改革」は、子供たちの学びの質にも関わる重要な課題となっています。

広島県教育委員会では、教員が、限られた時間の中で、子供と向き合う時間を確保し、教員一人一人の力を最大限に発揮できる環境を整えていくために、これまでの教員の働き方や業務の見直しを行うなど、業務の負担軽減や超過勤務の縮減に向けた様々な取組を進めています。

こうした取組により、教員が、授業準備や子供たちへの支援に専念できるようになることで、日々の教育活動が一層充実し、子供たち一人一人の豊かな学びや成長につながるものと考えています。

保護者や地域の皆様には、取組の趣旨に御理解をいただき、御協力をお願いします。

県立学校における閉庁日の設定

県立学校では、夏季及び冬季休業期間中に閉庁日を設定しています。閉庁期間中は、原則として学校の教職員は不在となり、部活動などの教育活動のほか、証明書発行などの窓口業務、電話でのお問い合わせについても、対応できませんので、事前に各学校にお問い合わせください。

県立学校における「働き方改革」取組例

教員の超過勤務の上限を国の指針に合わせて、原則1か月45時間以内、1年間360時間以内にすることを目標にしています。

- 勤務時間外の留守番電話対応 緊急時の連絡先は、各学校に確認してください。
- 部活動休養日の設定 週当たり2日以上 (平日1日以上、土曜日及び日曜日1日以上)
- 定時退校日の設定 週1回以上



令和5年度における一斉閉庁日

令和5年8月14日(月)、15日(火)、16日(水)の3日間
令和5年12月28日(木)、令和6年1月4日(木)の2日間



学びたい生徒を支援します! ~経済的負担を軽減~

高等学校等就学支援金 給付

授業料・受講料等の負担が実質0円(授業料等に充当)

- 【支援内容】
公立高校全日制の場合:年間11万8,800円
- 【次のいずれにも該当する者】
- 広島県内の公立高校等に在学する生徒
 - 年収の目安が、4人家族で給与収入が約910万円未満



高校生等奨学給付金 給付

授業料以外の教科書費・教材費などを支援(返済不要)

- 【支援内容】
対象の公立高校生等1人当たり:年間3万2,300円~14万3,700円
- 【次のいずれにも該当する者】
- 国公立高校等(県外の学校を含む)に在学する生徒の保護者等
 - 保護者等が広島県内に住所を有している
 - 生活保護受給世帯または保護者等全員の住民税所得割が非課税の世帯
 - 生徒が高等学校等就学支援金等の支給対象

問合せ先

教育支援推進課 受付時間 月~金曜(祝日を除く) 9:00~17:00
就学支援係 082-222-3015 | 企画調整係 082-513-4996

●制度内容等は変更になる場合があります。
●国立・私立高校等にも同様の制度があります。詳しくは進学予定の学校にお問合せください。

広島県 教育支援推進課 検索

詳しくはコチラからご確認ください。▶



学びの変革環境充実奨学金 給付

生徒用コンピュータ等の購入費などを支援(返済不要)

- 【支援内容】公立高校全日制の場合:年間3万5,000円を上限
- 【次のいずれにも該当する者】
- 広島県内の国公立高校等に在学している生徒
 - 学校の指示により生徒用コンピュータ等を保護者等の負担で購入等している生徒
 - 生活保護受給世帯または保護者等全員の住民税所得割が非課税の世帯

高等学校等奨学金 貸付

経済的理由で修学が困難と認められる生徒に学資金の一部を貸与

- 【支援内容】月額1万8,000円(国公立高・自宅生)~3万5,000円(私立高・自宅外生)
- 【次のいずれにも該当する者】
- 国公立高校等(県外の学校を含む)に在学している生徒
 - 保護者等が広島県内に住所を有している
 - 学習状況が良好であると認められる生徒
 - 成年者である保証人を2名立てることができる生徒
 - 同種の奨学金等の貸付け等を受けていない生徒
 - 年収の目安が、4人家族で給与収入が約910万円未満

